

・1月30日(火)、文部科学省において、学校施設環境改善交付金等の支援に関する要望活動を行いました。

現在進めている南小学校北校舎改築事業における財源として最重要である国の交付金の十分な確保を目指し、関係機関である文部科学省に要望したものです。

町では、清水町学校施設長寿命化計画に基づき、学校施設の長寿命化対策を順次進めていくこととしており、今回事業の対象となっている南小学校の北校舎は、町内小中学校の中で最も古い校舎であります。

今後事業を進めるに当たり、相当額の費用が見込まれることから、確実な財源確保に努めているところであり、要望の際には、地元選出の国会議員、県議会議員のお力添えをいただきながら、清水町の思いを伝えてまいりました。

【場所】 文部科学省

【要望先】 文部科学副大臣 今枝宗一郎 様

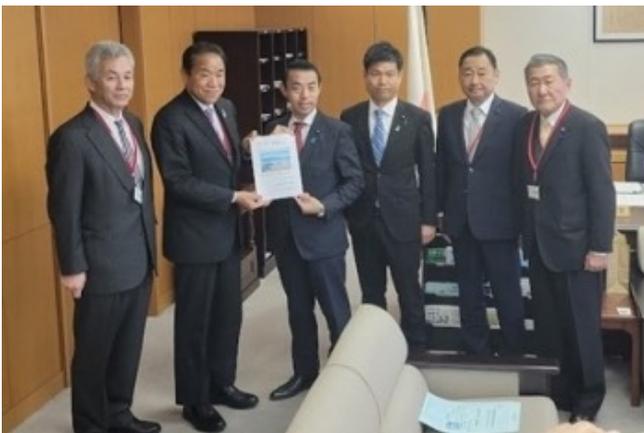
【同行議員】 衆議院議員 勝俣孝明 様

静岡県議会議員 坪内秀樹 様

【要望者】 清水町長 関義弘

町議会議長 佐野俊光

教育長 朝倉和也



・1月28日(日)、令和5年度沼津支局人権啓発活動地域ネットワーク協議会「人権講演会」を開催しました。

講演会の講師として、落語家・三遊亭朝橘氏をお迎えし、「落語で学ぶ多様性」と題した人権寄席という形でご講演いただき、落語を通じて楽しみながら人権を学べる機会をご提供いただきました。



・1月27日(土)、町制施行60周年記念 ジュニア世代ホッケー強化育成事業「トップアスリート・オリンピックによるホッケートークセッション」を開催しました。

本事業は、トップアスリートとの交流を通じて、子どもたちが将来への希望を持ち、夢の実現に向けて一步を踏み出す契機となるよう開催したもので、多くの小中学生の皆さまに参加いただきました。翌日の28日(日)には、実践形式によるホッケークリニックも行われました。



・1月24日(水)、令和5年度第1回清水町花とみどりのまちづくり委員会を開催し、委員の皆さまに委嘱状を交付しました。

本委員会は、町内における緑豊かなまちづくりを推進する目的で設立された緑化普及事業の推進団体であり、今回の会議では、「町内の緑化」と「花いっぱいコンクール」についてご検討いただきました。



・1月25日(木)、友好姉妹都市である台湾苗栗市の中学生6人が交換研修事業で来訪されました。

皆さんには南中学校で書写の授業や給食を体験していただき、異なった文化を見聞することで視野を広げ、大きく成長されることを期待しています。また、帰国された際には、苗栗市と清水町の友好の懸け橋になっていただくことをお願いいたします。



・1月25日（木）、清水町国民健康保険事業の運営に関する協議会（柴田章義会長、久保田光一副会長）から国民健康保険税の負荷限度額の改正についての諮問に対する答申をいただきました。

短期間での慎重なるご審議をいただき、速やかな答申に結びつけていただいたことに心から感謝申し上げます。



・1月22日(月)、令和5年度 噛むカムケア8020コンクールの公益財団法人8020推進財団理事長賞の受賞報告のため、松永武人様が来庁されました。

松永様は、厚生労働省と日本歯科医師会が推進する「80歳になっても、20本以上の自分の歯を保とう」という取り組みの一環である本コンクールにおいて、駿東地区代表として県大会に出場し、見事、理事長賞を受賞されました。

このたびの受賞を心からお祝い申し上げるとともに、町としましても「誰もが安らぎと生きがいを感じる『笑街健幸』のまち」の実現を目指し、歯科保健施策をはじめとした健康増進への取り組みを推進してまいります。



・1月22日(月)、今月4日に本町が交通死亡事故ゼロ1500日を達成したことに伴い、県交通安全対策協議会会長の県知事からの表彰状を、県くらし環境部 県民生活局 くらし交通安全課長の入戸野様から伝達いただきました。

交通事故防止にご協力いただいている町民の皆さまをはじめ、交通安全活動にご尽力いただいている交通指導委員会や交通安全協会清水分会の皆さま、日頃からご指導をいただいている県くらし交通安全課や沼津警察署等関係機関の皆さまに心から感謝と敬意を申し上げます。

町としましても、「交通死亡事故のないまちづくり」を推進し、安全で快適な交通社会の実現に努めてまいります。



・1月20日(土)、令和5年度 こころの健康づくり講演会を開催しました。

本講演会は、自殺対策推進事業の一環として実施しているもので、地域全体のこころの健康づくり活動を活性化させることを目的に開催しています。

当日は、ヨガ・ピラティスインストラクターの山田綾美様をお招きし、講話とヨガの体験を通じた実践的な講演を行っていただきました。



・1月17日（水）、第1回柿田川を語る会を開催し、委員の皆さまに委嘱状を交付しました。

本会は、美しい景観や豊かな湧水量を誇る柿田川をより良い形で後世に引き継ぐことを目的に、多くの皆さま方で柿田川の在り方を話し合う場をつくり、建設的な話し合いを進めるために設置をいたしました。

第1回の会議においては、委員の皆さま一人一人が考える柿田川の在り方についてご意見をいただきました。

本会を通じて、町の宝である柿田川の保全と活用について、町として何をすべきか見出し出していきたいと考えています。



・1月15日(月)、富士山南東スマートフロンティア推進協議会（三島市・裾野市・長泉町・清水町）の第2回首長座談会に出席しました。

座談会では、12月に実施した自動運転バスの実証実験の振り返りや次年度以降の取り組みに対する意見交換、地元の大学・高校との連携による新たなモビリティを活用したまちづくりについての協議などを行いました。

今後においても、公共交通の充実化をはじめ、地域課題の解決や地域の活性化を図るため、広域的な連携をさらに強化してまいりたいと思います。



・1月12日(金)、令和5年7月8日にご逝去された元町議会議員の故 木村寛夫様が旭日単光章を受章されたことを受け、ご遺族である木村英治様に対して勲章の伝達を行いました。

木村寛夫様は、5期20年にわたり町議会議員を務められ、その間、総務委員会委員長や議会運営委員会委員長などの要職を歴任されるとともに、保護司としても22年間活動を続けられるなど、町政および地域の発展に対する顕著な功績が評価され受章に至りました。

木村様のご功績に心から敬意と感謝を表するとともに、町としましても、木村様の旭日単光章の受章に大きな勇気をいただき、今後の町のさらなる発展・飛躍に向けて、より一層の励みとさせていただきます。



・1月11日(木)、令和5年度清水町地域公共交通会議を開催し、新たに国土交通省中部運輸局静岡運輸支局主席運輸企画専門官の原田光一郎様を委員に委嘱しました。

会議においては、町の自主運行バスである循環バスの継続審査や路線バス単独継続困難の申し出路線（継続）などについてご審議いただきました。

町としましても、公共交通の充実を図り、町内外への利便性を高める交通基盤の整備に努めてまいりますので、引き続き、委員の皆さまのお力添えをお願いいたします。



・1月7日(日)、令和6年清水町消防出初式に出席しました。

式典の冒頭では、令和6年能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするため、黙とうを捧げました。

その後、長年消防活動に従事した本部員および団員の功労に対する表彰や、機械器具点検、第2分団による規律訓練などが行われました。

消防関係者の皆さまの日頃の活動に心から敬意と感謝を表するとともに、災害に強いまちづくりを推進するため、引き続きお力添えをお願いします。



・1月7日(日)、交通指導員会視閲式を開催しました。

交通指導員の皆さまには、朝夕の交通指導を通し、児童生徒が安全安心に登校できる環境を作っていただき、心より感謝申し上げます。

また、表彰伝達を受けられた皆さま方には、長年の交通指導の活動に感謝を申し上げるとともに、心から敬意を表します。本年も引き続きご尽力を賜りますようお願いいたします。



・ 1月7日(日)、令和6年清水町二十歳の門出を祝う会を開催しました。

4年ぶりに清水中学校区と南中学校区の合同開催となった式典では、各校区の代表者が誓いの言葉を述べたほか、実行委員会が企画した第2部においては、恩師対面インタビューが行われました。

20歳を迎えられた皆さまとご家族の方々に心からお祝いを申し上げますとともに、皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

町としましても、清水町が皆さまにとって誇りと愛着を持ち続けられる町であるよう、「くらしやすさで未来をともにつくるまち」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。



・1月4日(木)、令和6年賀詞交歓会を開催しました。

町の皆さま方へ新年のご挨拶を申し上げた後、清水町善行賞および清水町産業振興賞の表彰式を行いました。

善行賞表彰式では、町民の模範となるべき善行のありました5人の方々を表彰し、産業振興賞表彰式では、町で長年にわたり事業を営み、町の産業経済の発展に貢献された5社の企業様を表彰しました。

表彰式後には、千丈民謡会の皆さまによる津軽三味線と民謡が披露されました。



・1月4日(木)、清水町役場は本日から仕事始めとなります。「くらしやすさで未来をともにつくるまち」の実現に向けて、さらなる発展と飛躍を目指す清水町を本年もよろしくお願いたします。

1月1日に発生しました令和6年能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた全ての皆さまにお見舞いを申し上げます。また、被災地において救助・復旧活動にご尽力されている皆さまに深く敬意を表します。

町としましても、「自助」「共助」「公助」の全てのレベルで災害に対する備えを強化し、安全で安心して暮らせる環境づくりを進めてまいります。